



キトラ古墳
の
発掘調査

2004年7月

独立行政法人 奈良文化財研究所・文化庁





石室跡出土の
磨製石器と燧石



石室跡出土の
地の巻鍔金具 (大塚写真・奥大)



石室跡出土の
燧石製の石器



石室跡出土の石器 (大塚写真・奥大)

調査の経緯 ネトラ古墳(明日香村阿部山)は、畿内岩切石積み石室を内蔵する新石器(縄文時代後中期)の古墳。1983年に文武の絵、1998年に青板・白虎・天文図、2004年に銅葉がみつかった(2000年国特別史跡指定)。だが、薄い土層の上に置かれた壁画は各所で破損し、剥落寸前の状態にある。そのため、2002年から文化庁が主体となって保存事業が始まった。石室南側にある墓道(棺や副葬石の搬入路)を一帯調査し、翌年から空室施設完成の保護施設を建設。2003年秋以降に準備を進め、2004年1月から7月まで発掘、奈良国立歴史学研究所と明日香村が共同で発掘調査にあたった。

遺構の概要 竪穴式 石室の西側に沿って溝状に掘られていた。上幅約2m、南北長約5mある。掘削者は閉塞石の西側上部を壊し、上下0.65m・上幅0.4mの孔をあけて侵入していた。

墓 道 石室前の長さ約15m分を調査した。幅2~2.5mあり、石室側が狭い。東西の壁はほぼ垂直にたつ。床面には、閉塞石を搬入したコロのレース痕跡とこれを撤去後に掘られた穴2個(直径約0.6m)がある。穴は墓道壁に開けするのだろうか。墓道は最終的に版築技法(土を突き固める方法)で埋め戻す。大きさは3層におかれ、最下層の0.5~0.6mが特に堅くなる。

石室 石室は、総高1.82m・幅1.96mあり、天井石は厚さ0.68m・幅1.85m、足腰石は高さ1.15m・幅1.2m・厚さ0.495mある。石材の目地(継ぎ目)には塗灰を塗りこむ。

内法は、奥行2.4m・幅1.94m・高さ1.24m。竪穴から流れ込んだ土を除去すると、石室一面に黒漆塗り木桶(内面塗塗り)の破片が堆積していた。木棺片と床面との間には薄い粘土層があるので、木棺が撤去時に砕け、石室内で水没と乾燥を繰り返して再埋没したことがわかる。

出土遺物 木棺片多数とともに、空室裏側製刀装具片1、琥珀玉2、金製製器部金具1、銅製釘5、人骨片約15、土師器類1などが出土した。刀装具片は刀を鐙に付ける帯を通した金具。人骨は熟年以上の横断骨片と鑑定されたが、性別は不明。

壁 画 遺構の写真撮影とフォトマップ制作もおこなった。天文図の詳細が判明し、四神のほか十二支像が描かれていたこともわかった。壁画はいずれも磨ききで下書きする。天文図の描き方とともに高松塚古墳とは違いがある。

まとめ ネトラ古墳の発掘調査は大きな成果をあげ、掘事に終了した。しかし、石室内の埋積土はまだ洗浄。また、壁画の保存修復はこれからが本番。調査はまだ終わらない。